

地域医療を担う看護人材の定着～卒業生の就業状況調査より～

○水澤晴代 相模原看護専門学校

I. はじめに

看護職キャリアの積み重ねがないまま離職して行く看護師が多く、定着促進に向けた支援が課題となっている。

A校は地域社会に貢献できる看護師を育成することを教育理念としている。卒業生が地域医療を担う人材として市内の施設に定着しているのか、卒業生の就業状況調査を行い、現状把握とともに学校運営評価の一助とし、今後の教育活動の改善に反映させていきたいと考えた。

II. 目的

卒業生がA市内の施設に就業定着しているのか、現状を把握するとともに、仕事を継続していく要因を質問紙調査から明確にする。

III. 研究方法

1. 研究デザイン: 質問紙による量的研究。2.

対象: A校平成24年度から令和元年度3月卒業生の計528名。3. 調査期間: 令和3年3月

(調査)。4. 調査方法: 葉書によるアンケート協力の依頼、QRコードより無記名で回答する方法。5. 分析: 統計のスーパーバイザーの指導のもと、単純集計及びt検定を行った。6. 倫理的配慮: A校倫理委員会(承認番号R2 No1)と理事会での承認を得た。対

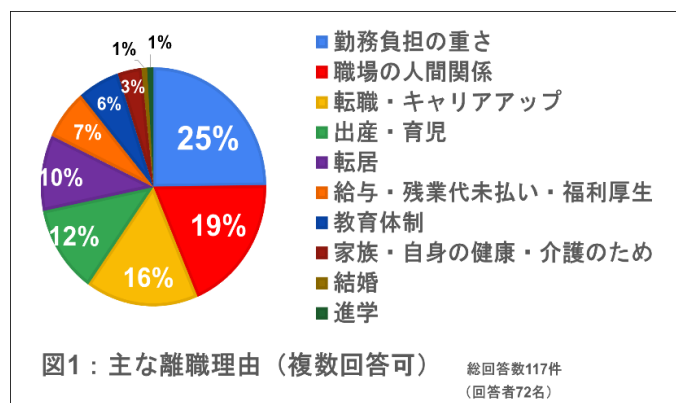
象者には、郵送にて研究概要・目的、QRコードより回答する方法を案内し、無記名・プライバシーの保護、本研究以外は使用しないことを文書で説明し、質問への回答をもって同意とみなした。

IV. 結果

1. 181名の卒業生からの回答が得られた。有効回答率は39% (連絡先不明の66名を除く)。卒業直後の進路は74%の人が市内に就職していた。

2. 卒業時に就職した施設の離職の有無については約6割(59%)が離職せずに就業を継続しており、約4割(40%)が離職していた。離職理由は「勤務負担の重さ」が25%、「職場の人間関係」19%、「キャリアアップ」16%、「出産・育児」12%、「転居」10%の順であった。

(図1参照)



3. 離職者の現在の就業状況は80%が看護師として就業しており、12%が全く就業せず、

看護師以外で就労している人が 8%いた。勤務地は A 市内が 60%である。

4. 現在の勤務先を選択した理由は、「通勤に便利」が 24%と最も多く、「必要な技術や知識について十分な教育が行われている」16%、「就業形態が自分のライフワークに合っている」15%と続く。

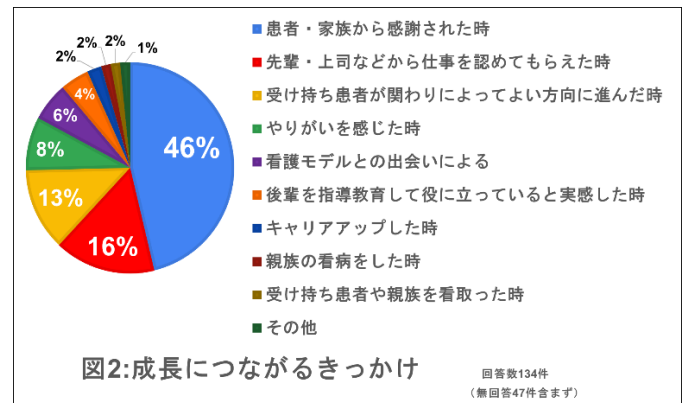
5. 今後の働き方について、「家庭の事情に合わせて無理なく働きやすい職場で働きたい」40%、「現職場で働きたい」29%、「施設内で職場を変わりながら長く働きたい」10%と、約 4 割の人が現施設での就業を希望していた。

6. 離職者で現在看護師として就業していない人 21%の回答者のうち、約半数の 53%は今後、看護師としての就職を希望している。

7. 仕事を継続する要因となる看護師として成長につながるきっかけや体験は、約 75%の人が「あり」と答えている。特に強く感じた体験で最も多かったのは「患者・家族からの感謝」約 46%であり、次に「先輩や上司から自分の仕事を認めてもらえた」約 16%と続く。

(図 2 参照)

今回の調査では、成長につながる体験の有無と離職との関係に有意差はなかった。



V. 考察

離職理由として、業務負担の重さや職場の人間関係を挙げていることから、個人の能力ではなく、一律に業務負担が増えることや、それに伴う支持的関わりが不足しているとの知覚が影響しているのではないだろうか。

また、就業していない人のうち 5 割以上の人が看護師としての就業を希望していることからライフワークに応じた勤務体制の配慮が再就職につながることを示唆された。現在就業していない人が 1 割強と看護師以外で就労している人が 1 割弱いる点が課題である。

VI. 結論

1. 卒業直後の進路は 74%が市内に就職していた。約 6 割が離職せずに就業を継続しており、約 4 割が離職していた。

2. 看護師を継続したいと思う要因として、約 75%の人が対象からの感謝や同僚からの承認などの成長体験を得ていた。